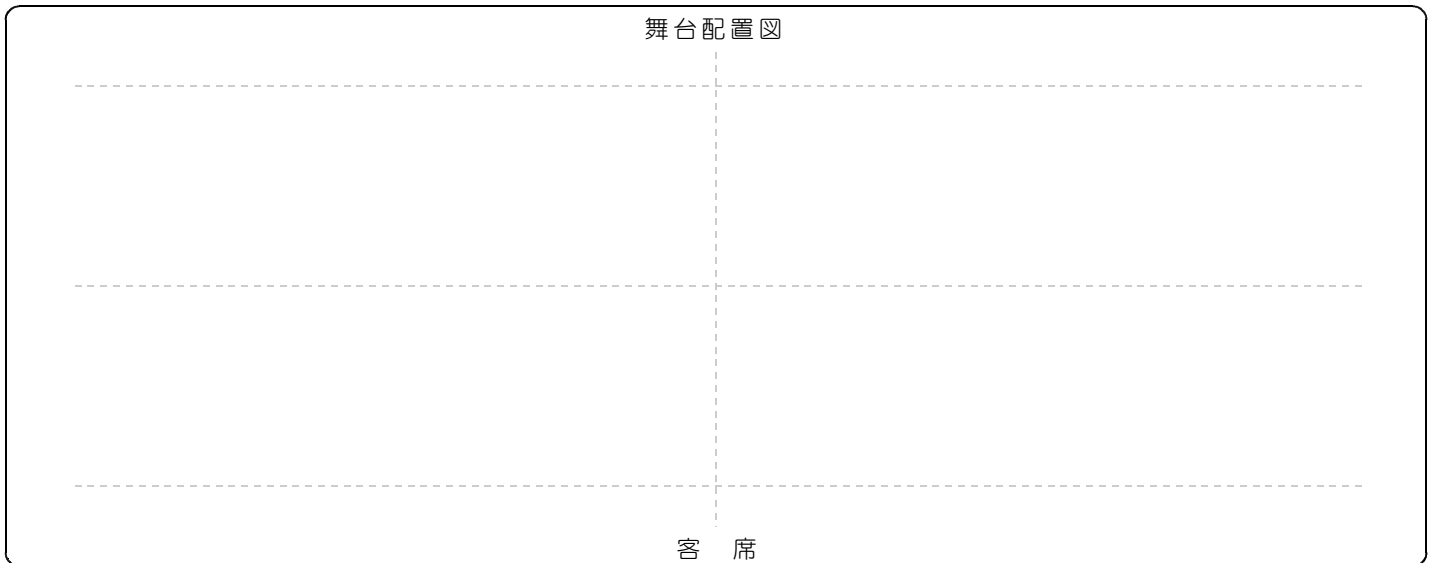


No.	<b>誦</b> (しょう)	演奏者数	演奏時間
-----	----------------	------	------



表示記号一覧	- 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

<b>調絃表</b>	ピッチ A=44	編成：三絃
三絃	イー = C      本 調 子	

編成欄には面数を記入    開始調絃は太字    転調は上下の欄    ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1985年    委嘱者 本條秀太郎    構成 三弦独奏    時間 10分    出版楽譜 無し

解説 器楽曲であるこの三味線の独奏曲に『誦』というタイトルは、あまり相応しくないかもしれない。『誦』の持つ、となえるという意味と楽器を演奏する行為は、一見明らかに異なっているからである。しかし私はこれまで、多くの様々な楽器の演奏家に接して（私自身も箏の演奏家であるが）楽器を演奏する者にとって、身体の深い部分で『誦』は常に演奏と結ばれているような気がしてならない。人によっては内部に於ける『誦』に止まらず実際に声となって表われてくる場合もあり、『誦』の中にこそ演奏の本質があるように思うのである。

[作曲者] 収録媒体 -